弘法大師正御影供

4月17日(月) 午前10時より

（旧暦 3月21日）

境内を見守る修行大師像
（修行大師像建立三十年）

轉法輪

大廈は羣材の支持する所
元首は股肱の扶け保つ所なり
弘法大師

平成二十九年四月一日発行
発行所 犬飼山 轉法輪寺
〒六三七-〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話 〇七四七-二三-四四〇三
FAX 〇七四七-二五-四七一七
編集発行人 桑山 聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

桜のつぼみもふっくらと、春色のにわかに深まりを感じる頃となってまいりました。

本年も弘法大師報恩の御祭り、正御影供を厳修致します。皆さまお誘い合わせのうえご参拝下さいませ。

法　要　午前十時より
内吉野結衆寺院総出仕

法　話　午後一時より
「お大師さまと共に」
齋藤智弘僧正

もちまき
午後二時半より境内にて

昼食接待

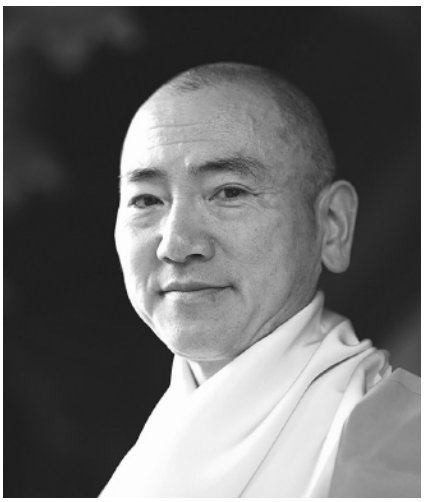
シャトルバス運行
橋本駅より

犬飼山轉法輪寺

お大師さまのお言葉　建物は細かな材料が集まって出来ています。一国の元首も同じく沢山の部下がサポートして成り立っています。私たちの身体も同じこと、多くの助けに生かされているのです。

大師の光につつまれて

轉法輪寺
七十二代住職　桑山慈紹



当山の本堂は、宗祖弘法大師を御本尊とし、向って右に不動尊、左に愛染明王を祀っています。御入定大師の尊像は、にこやかな若々しいお姿でいつも迎えて下さいます。毎朝香華灯明を献じて修する大師法は、誠に有難く、心穏やかなる時も、心沈む時も、即座に導き下さいます。

大師尊像の右手には五鈷杵を、左手には念珠を持たれています。この五鈷杵は仏さまの五つの徳を表しています。左手の一〇八念珠は救済の姿を示しています。私は大師御宝号、不動真言、愛染明王真言、明神号等を唱え、檀信徒各家の家内安全、子孫長久、如意円満、各家先祖代々精霊有縁精霊菩提のため、至心祈念させて頂いています。

御真言を唱え祈ること。これは諸々の因縁を超えて転迷開悟（てんめいかいご）し、開運の最も近道であると申せましょう。この有難い大師の祈りをどなた様にも会得して頂きたいと思い作ったのが弘法大師念誦私次第であります。

弘法大師念誦私次第

○合掌礼拝

○懺　悔
我昔所造諸悪業　皆由無始貪瞋痴
従身語意之所生　一切我今皆懺悔

○三　帰
弟子某甲　尽未来際
帰依仏　帰依法　帰依僧

○三　竟
弟子某甲　尽未来際
帰依仏竟　帰依法竟　帰依僧竟

○十善戒
弟子某甲　尽未来際　不殺生　不偸盗
不邪淫　不妄語　不綺語　不悪口
不両舌　不慳貪　不瞋恚　不邪見

○発菩提心
おんぼうじ　しった　ぼだはだやみ

○三摩耶戒
おん　さんまや　さとばん

○開経偈
無上甚深微妙の法は百千万劫にも遭い遇うこと難し。我今見聞し受持することを得たり。願わくは如来の真実を解したてまつらん。

○般若心経　二十一巻

○御宝号　千返
○十三仏名
南無　不動　釈迦　文殊　普賢
地蔵　弥勒　薬師　観音　勢至
阿弥陀　阿閦　大日　虚空蔵大菩薩
○光明真言　七返
○回　向
願わくはこの功徳をもってあまねく
いっさいに及ぼし我等と衆生と皆共
に佛道を成ぜん

信仰は体験の世界であります。頭で理解しても、もろいものです。深く永く、一心に日々礼拝してこそ真の光が見えてきます。お大師さまへの信仰を書き記した、広島県の住職の手記を紹介します。

「……太平洋戦争の末期、昭和二十年八月十日の夜、現住地福山市が空襲で、市街の九分通りがほんの数時間のうちに無残な焼野原になってしまいました。当時空襲警報と連呼される退避の叫び声に、いったんは防空壕に退避しましたが、自坊の周辺にも次々に焼夷弾が投下されて火災を起し、蒙々たる火焔は暗黒の夜空を焦がして物凄いばかりであります。このまま一方口の防空壕にいては蒸し焼になるかもしれぬと、突然不安に戦きながら寺から二町余を離れた丘の上の山畑に逃れて、せめても寺の焼け崩れる最後を見届けたいと、時々顔をあげて眼下の寺の方をみるのですが、幾度みても、寺の四周にはあちらこちらにも、火の手があがって、焔は秋空をこがしていても、寺のお堂も庫裏も山門も、ハッキリと焔の中に浮かんでいます。周囲をとりまく老松の枝ぶりも数えられるようです。その時私は、心にお大師さまからの厳しいおさとしを受けたのです。

寺を焼いて、本尊様を焼いて、歴代先師檀越のお位牌を焼いて、自分達だけが生き残ったとして、それで何になるか。お前は僧侶ではないか。僧侶は僧侶らしく、お寺と運命を共にし、本尊様を守り抜いて、力尽きて死んでこそ本望ではないか。帰れ！そして寺を最後まで守れ！その痛烈なる反省感、見えないお大師さまのおみちびきで、私は山畑の中から立ち上がって、火の粉のなかをくぐりぬけ、いったんは逃げ出した寺に帰ってきて、それから一生懸命に拝みました。全く無我夢中、専念お大師さまに祈願して幾時か過ぎたのでありますが、それは非常に長い時間のように思われましたが、後から考えると一時間にも足らぬ時間であったのです。自坊を除いて、四辺はみんな無惨に焼かれて焦土と化した中に、寺のみが奇跡的に助かったのです。かなり広い寺の境内には焼夷弾一つ落ちなかったのです。翌る朝から避難された檀家の人達や、市民の多くが、家は焼かれても、家財は失っても、先祖のお位牌まで失くしてしまったが、檀那寺が助かって何よりだと、泣いて喜んでくれましたが、私は、市民の大部分が焼け出されたのに、自分の寺が助か

◎御詠歌講　未経験でも大丈夫。少人数で基礎から指導しています。一緒にお寺の行事や、本山の大会に出てみませんか？

ったからといって喜んでいるような、利己的な気持ちは毛頭ありませんが、これは平素お大師さまを信仰しているおかげだと、何とも言えぬ感謝の念で合掌するとともに、その時の気持ちを今に忘れたことはございません。せめても御恩に万分の一に報いたいと心砕いておるのでございます。……」

『坂田徹全法話集』より抜粋

私たちの祈りは拙いものかも知れません。しかし、一心不乱に祈る時不思議が起こるのです。坂田老師が、空襲火災の蒙々たる火焔の中で本堂に一人座して命がけで力の限りをつくし大師宝号を祈る、その叫び声が聞こえてくるようです。その祈りが天に通じたのでしょう。

私達も、避けて通れぬ難題に遭遇した時、御宝号念誦次第、南無大師遍照金剛を忘れず熱誠をこめ、力の限りを尽くして祈ろうではありませんか。

合掌

生かせいのち

【第五十三話】

名誉住職　桑山聖規

◎命は天より与えられた宝

「自分の体は自分のもの。どのようにしようと勝手にしたら良い」と思う人があります。しかし、生まれることも寿命尽きて死ぬことも、自分のはからいを越えています。天命であることを知るとき、無上の尊さを感じます。

草木も鬼畜人天も皆同様に、悉有佛性と祖師は説かれています。みな尊い佛性を持つ故に、佛教の戒の始めに〈不殺生〉があります。他を殺すことは悪いこと、当然のようでありますが、私たちは他の生き物を殺して命を頂いているのが現実です。ですから食事の前には合掌し、修行僧は読経します。在家の方は「頂きます」と唱えた後に有難く頂きます。それは尊い命を捧げてくれているものに対しての感謝の行いです。

食べ物に不足を思ったりする人があるようですが、自分の食膳に来るまでに多くの人の努力と、天地の恵みがあればこそです。同じ地球上でも、食べ物が少なく飢えて死ぬ人も有ることを報道されています。今の自分に感謝して、恵まれない人に施しをすることも

教えられています。

◎この世は佛の世界

私達の住む世界は悪世と言う人がありますが、本当は佛の世界です。佛とは何でしょうか。真言宗の教えでは、この世界そのものが佛なのです。地水火風空、世界を織りなすものが大日如来の身体であるという教えです。大自然の恵みは無限で無料です。当たり前のように受け取ってしまい、有難いと思う心を忘れてしまうのです。

私の母は毎朝、外で顔を洗う時に朝日を拝んでいました。子どもであった私はただぼうっと見ていましたが、修行するようになって、母は天地の恵みに感謝して、幸せを祈ってくれていたことがわかりました。佛の世界に生かされていることに目覚め、自分も佛のように他を利益し、安楽を少しでも多く受けて欲しいと願う心を持つようになりました。

世界の恵みに感謝する気持ちが無い人は、我利我利盲者（がりがりもうじゃ）に落ちている人が多いように思います。利他のやさしい心を知って実行してほしいと思います。「拝み合いましょう、助け合いましょう」は高野山真言宗の教えの第一です。

◎正御影供のご案内

正御影供は弘法大師に感謝し、大師の教えを学び、地上の極楽を皆で築き上げていくための法要です。天より与えられた命は私も他も同じ、他国の人も同じ尊い命を持っていることを思えば、差別したり害することはできません。助け合い拝み合い、そうして平和な世界を作ることが大師の教えです。今年の当山の正御影供は四月十七日です。皆さまお誘いあわせてご参詣ください。

南無大師遍照金剛　合掌

心のふるさと

―お地蔵さま、東北へ―

後住　**桑山聖淳**

二月二十四日、まだ冬の寒さが残る東北の街に、焼き物のお地蔵さまをいっぱいに詰めたスーツケースを持った私がいました。今年で東日本大震災から丸六年。目的地である宮城県亘理郡には、数年前ボランティアでも訪れていたこともあって、復旧の足取りを確かめるように、かつて全てを飲み込んだ海岸線を眺めていました。

「遠いところ、よく来てくれましたねぇ。」迎えてくれたのは亘理郡の徳本寺住職、早坂文明僧正。轉法輪寺とのご縁は二年前の永代供養会のことです。兼務している徳泉寺の被害、たくさんの檀家との別れをお話し頂いたことがきっかけでした。徳泉寺再建の後押しをしよう、轉法輪寺の檀信徒から

声が上がり、慰霊のためのお地蔵さまを納める計画が立ち上がったのです。

徳泉寺の周りは、以前は多くの家屋があった町並みでした。でも、もう住むことは出来ません。海から近いために災害危険区域に指定されてしまったのです。住民たちは親しんだ町から、海岸から離れた場所や仙台に移り住んだそうです。「平らな町でしょう。」早坂住職が言いました。家が並んでいたと言われなければ、元から広い原っぱだったとしか思えないところに、再建される徳泉寺の基礎が作られていました。

誰も住めないところに寺を建てる意味は？そう思われるかもしれません。でも、離れなければならない場所であっても、思い入れのある故郷の町。そこに帰る場所がある。自分たちのご先祖さまを祀る寺がある。これが心の拠りどころとなると早坂住職は言われます。単なる建物ではなく、祈りの場となる寺だからこそ、本当の意味で故郷の復興となるということです。

私たちが作ったお地蔵さまは一人に二体。一体は手元に残し、もう一体は徳泉寺に祀られます。いまも手元のお地蔵さまを見るたび、東北の街を思い出します。誰かの大切な故郷を、そこに住む人たちが心穏やかであることを祈ります。遠く離れた場所であっても、お地蔵さまが心を繋いでいることを思います。

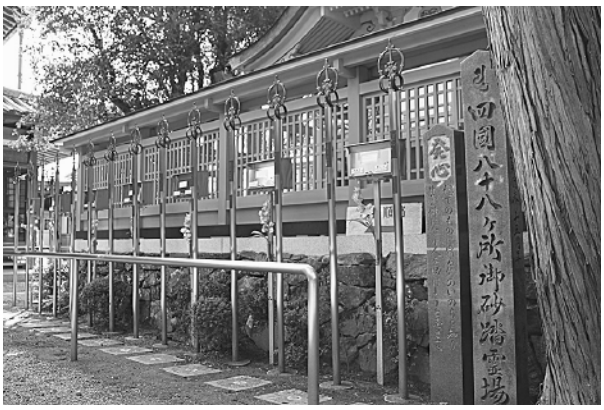
一心地蔵を受け取る早坂住職と奥様

納めるお地蔵さまの背には「舎利礼文」が書かれています。仏法が滅んでしまうとき、舎利が現れて神変を起こす。舎利は瑠璃宝珠となって天上へ昇り種々の花を降らせる。人々の心は和み、戦いや飢えも無くなり、どうしようもない悪世が美しい世界に変わると「悲華経」に説かれています。仏の慈悲の心が私達へ、そして被災地へ届くことを祈るばかりです。

修行大師像・御砂踏み霊場 建立三十年を迎えて

当山の本堂前には、修行大師様が立たれています。このお大師さまと、御砂踏み霊場は今から三十年前、昭和六十二年一月二十一日に開眼法要が行われました。修行大師のお姿は、頭には網代笠をかぶり、背には荷俵をしょって、手には錫杖と托鉢の為の鉄鉢を持っています。これは各地を巡錫するための道具で、ことに四国の辺路を行脚されていた時のお姿です。

お遍路さんの笠や白衣に「同行二人」と書かれているのは、修行大師の御誓願です。遍路は基本的に一人で行くものですが、実は二人の旅で、お大師様と共に歩いていると言います。苦しい旅路も二人連れの同行二人。これは人生に例えられます。苦しい時、孤独に潰されそうな時も、本当はお大師様と同行二人、見守って下さっているのです。



開眼法要の願文には、「昭和六十一年十一月九日より副住職外有志三名四国路を巡拝し稽首礼拝して本尊の御影を開眼し土砂の加持を行じぬ、小衲日々晨朝一字三礼の心をこめて心経を浄写し大師の御影を礼拝せり、この師弟誠意の結晶に蓮子を加え大錫杖の上部に収納し本尊となす、錫杖の直前に尺角の切石に蓮華を彫刻しその下に霊場の御砂及び秘密梵字の浄写を納めて速証浄土とならしめたり、有縁の信徒この蓮台に乗り錫杖を礼拝し手を触れんに諸罪滅し諸難を消除し本来の佛性を顕現すること何の不思議かあらん」と記されています。

参拝された際はいま一度修行大師さまと、御砂踏み霊場を回って下さい。そして「同行二人」の心を支えにして頂ければと思います。

御膳帳のお願い

三月よりお世話人さまに正御影供の御膳帳を持って回って頂いています。

弘法大師御入定のおまつりである正御影供は、皆様に御喜捨いただいた浄財によって修行させて頂いております。なにとぞご協力よろしくお願い申し上げます。

◎タイコの会　お経を唱える時に合わせられるタイコを練習しています。
28日の護摩供にも出番!!　月３回の練習日があります。

来る４月17日㈪

正御影供

◆もちまき　2時半ごろ

◆法　要　午前10時より

法　話　午後一時より

「お大師様と共に」

善根山弘法寺副住職
齋藤智弘僧正

〈プロフィール〉

昭和三十八年福井県生まれ。福井県越前市、善根山弘法寺副住職。

高野山奥の院奉職の後、タイの大理石寺院に留学し一年間の比丘生活を送る。帰国後、平成十九年能登半島沖地震で結成された高野山足湯隊の中心メンバーとして活動、現在も被災地支援ボランティアを続けている。

高野山真言宗本山布教師元理事。心の相談員ネットワーク副代表。

――ご奉仕のお願い――

正御影供の諸準備のため、お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

四月十六日(日)　餅つき・旗立　掃除など

四月十七日(月)　当日（八時から）
お世話人様は、ハッピ・袈裟
腕念珠をご着衣下さい。

四月十八日(火)　後片付け

〈お知らせ〉

四月二十一日㈮の大師法会は十七日の正御影供に振り替え致します。

シャトルバスのご案内

今回、橋本駅～轉法輪寺間の小型バスを運行します。どうぞご利用下さい。

シャトルバス時刻表

橋本駅発	7:30
	8:30
	9:30
	10:30
	11:30
轉法輪寺発	13:30
	14:30
	15:30

お世話人さま募集！お寺の行事に関わってみませんか？年齢等不問です。お寺を通じて、幅広い知り合いを作りましょう！